

# あいち病害虫情報 最新情報

平成 21 年 5 月 15 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 5月上旬の気象概況

5月上旬の天気は周期的に変わり、平均気温は平年並、降水量は平年よりかなり多く、日照時間は少なく推移しました。特に6日から7日にかけては本州南岸を進んだ低気圧の影響で雨が降り、沿岸部ではこの期間の総降水量が200mmを超えた所がありました。

## ムギの病害

出穂期に比較的好天が続いたため、赤かび病の発生は、現在のところやや少ない状況です。収穫期が近づいているので、農薬を散布する場合は、使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止に十分注意しましょう。

収穫期の降雨は、赤かび病の蔓延を助長します。収穫期を迎えたほ場から、速やかに収穫しましょう。

## 果樹カメムシ類

今年の果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）の越冬成虫密度は、平年並でした。現在のところチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺はありませんが、フェロモントラップにおける誘殺数は5月第2半旬から急増しました。今後、気温の高い夜には成虫が果樹園へ飛来するおそれがあります。特に例年被害が多い園では飛来状況に十分注意してください。園内への飛来を確認したら直ちに防除しましょう。

## 果樹の病害

落葉果樹の生育は平年より2～3日早い状況です。生育ステージにあわせた適期防除を心がけましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場があります。また、5月上旬に降雨が続いたため感染が広がるおそれがあります。ほ場での発生状況に注意し、初発を確認したら、ただちに薬剤防除をしてください。

ブドウ黒とう病が発生しているほ場があります。梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が拡大しますので、今後の天候に注意しましょう。昨年発生が多かったほ場やすでに発病を確認したほ場では、薬剤防除しましょう。

ブドウ晩腐病は数年前から発病の多いほ場があります。昨年発生が多かったほ場では開花直前に防除しましょう。

## 果樹の害虫

モモハモグリガのフェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況です。第1世代成虫の発生ピーク日は、豊橋市が5月12日、豊田市が5月14日、小牧市が5月15日でした。防除適期であるふ化最盛期は成虫発生ピーク日より4～7日ほど後となります。遅れないように防除しましょう。

カキではフジコナカイガラムシの成虫が多いほ場が見られ、豊橋市では卵のうの形成が始まっています。ほ場で卵のうを見つけた場合、ふ化状況を確認し、防除適期であるふ化最盛期に、粗皮の隙間にも薬剤がかかるように防除しましょう。

チャノキイロアザミウマは、現在、名古屋市と東海市のアメダス地点では第1世代成虫の発生ピークを迎えています。発生ピークはここ1週間の気温が高く推移したことから、チャノキイロアザミウマ情報第1号（5月8日）でお知らせした発生ピーク予測日より1日から2日早くなっています。防除適期は発生ピーク時ですので、防除適期を逃さないようにしましょう。ブドウでは袋がけ前に防除を徹底することが重要です。防除薬剤等はチャノキイロアザミウマ情報第1号（5月8日）を参考にしてください。

## キクの病害虫

施設では白さび病の発生は今のところ多くはありませんが、ハダニ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類の発生が目立つようになってきました。露地では定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

○ 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

○ 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

○ 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。

・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。

・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。

・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

マイナー作物対策・ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については <http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820